



爽風の森

気品ある自然・歴史・景観を未来につなぐ、新しい庁舎と複合施設の姿

雄大な浅間山の麓に広がる高原のまち軽井沢。裾野を流れる豊富な水脈は美しい滝や溪流の景観を生み出し、豊かな森をつくり多様な生態系を育て多くの人を魅了してきました。気品ある「国際親善文化観光都市」にふさわしい豊かな自然・歴史・景観を尊重して未来につなぐ場所。町民が集い、交流し、誇ることのできる庁舎と複合施設づくりを提案します。

■特に重視する配慮事項

森の中に活動と交流の場をつくる、「シビックプラザ」の形成

軽井沢の豊かな森の中で、誰もが集い交流できる庁舎と複合施設の集合「シビックプラザ」を提案します。低層分棟型の建物群が、様々な外部空間を形づくり、敷地の中に多様な内外の関係や景観を生み出します。多様性のある森が居場所をつくり、広く人々の活動と交流を受け入れる場となります。

安心できる、まちの頼れる拠点づくり（防災拠点）

いざというときに住民が安心でき頼りになる支えとして、高度な災害対策機能をもつ施設づくりを行います。特に浅間山の噴火に配慮し、防災対策本部を含む庁舎の主要機能は堅牢な耐火建築物とするとともに、災害時の迅速な行動と庁舎内の連携が取りやすい室配置に留意します。

豊かな景観を未来につなぐ場所（自然環境と街なみ、品格と調和）

浅間山の麓に流れる豊かな水脈が木々を育て、森の中に多様な自然や生態系を育ててきました。国際親善文化観光都市として世界中の人々を魅了し続けてきた軽井沢の自然環境を守り、長い歴史の中で培われた品格と調和ある街なみを未来につなぐことが、この場所に課せられた役割と考えます。

利用者に寄り添い、機能的で誰もが使いやすい空間づくり

庁舎はワンストップサービスのため窓口機能を1階に集約するなど機能性の高い構成とします。また、ユニバーサルデザインやプライバシー配慮など利用者目線の設計を行います。将来のレイアウトや機能変更も視野に入れ、数十年先の状況を見越した柔軟性の高い建築となるよう配慮します。

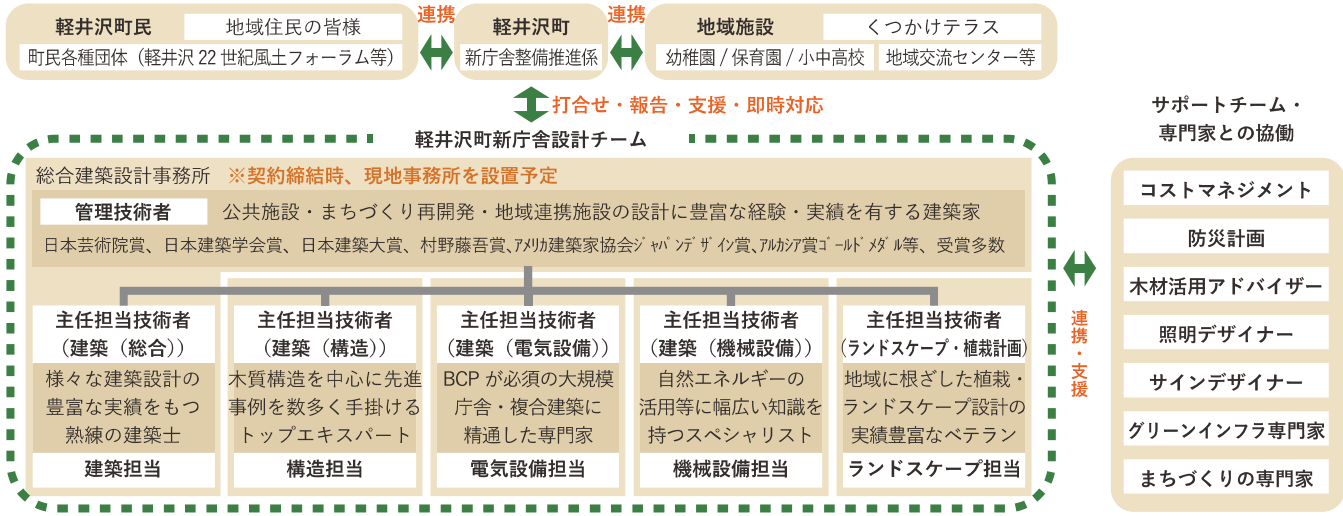
■取組体制：経験豊かな管理技術者と各分野で実績あるエキスパートによって構成する設計チーム／対話を重ね「ともにつくる体制」の構築

多角的な視点で高度な設計を推進する体制

豊富な設計実績をもつ管理技術者を中心に、木質構造で多数の先進的な実績をもつ構造のエキスパート、防災対策や自然エネルギーの活用精通した設備設計者、地域に根ざした植栽・ランドスケープに定評がある設計者らの協働によって、専門知識・技術力の粋を集めたクオリティの高い建築を実現します。

現地事務所の設置

軽井沢町・町民・地域施設との対話を重視して業務を進めます。地域とのコミュニケーション窓口として、契約締結後に軽井沢町内に建築設計事務所の現地事務所を設置し、地域と「ともにつくる体制」を構築します。



■工程計画：丁寧な意見反映のプロセス／確実なスケジュール管理とコストコントロール

対話を重視した意見反映・方針決定のプロセス

軽井沢町と綿密な協力関係を構築し、丁寧に対話を重ねながら設計を進めます。フリーアドレスの執務空間環境やワンストップサービスなどの計画については、現地調査や関係課へのヒアリングを通じて現状把握につとめ、現場の要望を設計に反映します。町民に対しては必要に応じて設計内容を共有するワークショップや説明会を開催し、意見の反映に努めます。

手戻りのない工程管理・多角的な視点による品質確保の体制構築

基本計画の初期に重要事項検討を集中的に行うフロントローディング手法によって情報共有を早期に推進し、業務の停滞や手戻りを回避することで

業務工程（案）

